島根大学教育学部紀要（教育科学）第12巻　15～28頁　昭和53年12月

現在進行形についての一考察

—その本質的意味と効果的な指導法—

小　寺　茂　明*

Shigeaki KOTERA

Progressive Aspect of the English Verb
—The Essential Meaning and How to Teach It Effectively—

0. はじめに

本稿は aspect としての立場から英語の（主として）現在進行形についてとりあげ，その本質的意味機能を解明することを目的としつつ，同時に英語教育での効果的な指導に役立てることをもねらいとするものである。それというのも，小寺（1977）で扱った現在完了形についてと同様，この現在進行形についても，その認識のパターンの本質的理解は，教えられる生徒はもちろん，教えるわれわれ教師自身にも，十分に得られているようには思われないからである。

われわれはややもすれば，進行形など極めて易しいものであるなどと考えがちであるが，決してそうではない。それが証拠に，英語学者・文法学者等がそれに与えているさまざまな名称を考えただけでも，それは頷けることなのである。たとえば，Sweet (1898 : 96) は，'definite tense', Onions (1971 : 104) は 'continuous tense', Kruisinga (1931[5] : 340) は 'progressive', Poutsma (1926 : 317) は 'expanded form', Jespersen (1931 : 164) は 'expanded tense', Curme (1931 : 373) は 'progressive form', Close (1977[2] : 73) は 'progressive aspect' のごとく，さまざまの名称が用いられているのである。あるいはむしろ，各学者が進行形の本質的意味として提示しているものを比べてみたほうがよいかも知れない。たとえば Curme (1931 : 373) は 'durative aspect', Hill (1958 : 209) は 'incompleteness', Twaddell (1963[2] : 2) は 'limited duration', Ota (1963 : 59) は 'process', Joos (1964 : 106) は 'temporary aspect', Hirtle (1967 : 27) は 'imperfectivity', Quirk et al. (1972 : 92) は 'temporariness', Palmer (1974 : 55) は 'duration', 細江 (1973 : 115) は「集注叙述」のごとく，これまた実に多彩なのである。各人各様の進行形に対する考え方が示されていると言っても過言ではなく，このことは同時に，その本質がいかに捕え難いものであるかを示しているものとも言えよう。実際それぞれの学説には一面の真理はあるが，残念ながら，まだその本質的意味機能についての consensus は得られていないのが実情なのである。

上述のごとく，学者の間での見解の一致は見出し難いものであるとすれば，英語教育の場でも不十分な，そしてしばしば misleading な指導がなされているような気がしないでもないのであるが，果たしてその一例として，佐藤 (1977 : 74) に次のような例があげられている：

> ある県の中学校の1年生の研究授業で，「進行形」の指導が行われ，生徒に自分の作った文を発表させたところ，The car is stopping. が出てきた。言語活動の例として生徒に文を作らせるのは大切な作業である。ところが，一人の生徒が挙手をして，「車は止まっているのか，止まりつつあるのか。」と質問した。指導者はこの問いの答えをほかの生徒たちに考えさせた。すぐに教師が答えを出さないで，生徒に考えさせ，生徒自ら答えを出させるのはよいことである。しかし，「止まっている（停止している）」と答えた生徒の数が，「止まりつつある（まだゆっくり動いている）」と答えた生徒の数より多かった。そこで教師は，「多数決」で前者を正しい解釈と審判して，次へと進んだ。これは明らかに教師が間違いを教えたことになる。

この例が示唆しているように，現在進行形を指導するとき，単に「今～している（ところである）」，「～しつつある」などの日本語訳のみを与え，現在進行形は「現在進行中の動作」を示すものであると説明するだけでは，明らかに不十分であり，本質的な指導をしたことにはならないであろう。

また，学習が進むにつれて，同じ '*be*+～*ing*' という現

* 島根大学教育学部英語教育研究室

在進行形でありながら，しばしば反復・習慣・未来・予定・意志・命令（禁止）を行わしたり，あるいは微妙な感情的色彩を表わしたりするので，教師のほうも，いわば，手を替え品を替えて説明しなければならず，生徒のほうもなかなかその本質がつかめず，いたずらに混乱を起こしているというのが現状ではないだろうか。

さらに進行形の理解を困難にしている原因の１つは，どんな動詞でも進行形になれるとは限らず，しかもいわゆる状態動詞といえども，（一見）例外的と思われる進行形としての用法が随分と存在するということである。状態動詞はその意味上，本来的に進行形とは相容れないにもかかわらず，あえてそれが進行形として用いられる以上，その背後にこそ進行形そのものの本質が潜んでいるように思われるのであるが，実はこの点こそが今までの英語教育においてとかく曖昧に扱われてきた最大の問題点と言えるのではないだろうか。あるいはまた，現在進行形と単純現在形とはどのように使い分けるのか，そしてどんな場合にそれらが自由に交替し得るのかといった具体的な指導にも欠けてきたきらいがある。少なくともこれらのことが組織的・体系的に教えられたことはほとんどなかったであろう。本稿では以上のようなことを念頭におきながら，現在進行形の本質的意味機能を中心に考察をしていくことにしよう。

1. 現在進行形の実例の検討
—その特徴を探る—

進行形というのは動詞そのものの辞書的意味あるいは文脈等の影響によりさまざまの微妙なニュアンスをもつものであると考えられる。そこでまずその実例を検討することによりその特徴を探ってみることにしよう。

1.1 資料収集用文献及び資料収集基準

ここでは現代英語から，現在進行形の用例をちょうど500例収集してみた（ただし，*be going to*～ または *be gonna*～ は別に count した）。

資料収集のためにここに用いた作品は次の５冊，即ち *Daddy-Long-Legs* (1964, Tempo Books : J. ウェブスターの手紙形式による小説)，*Death of a Salesman* (1973, 南雲堂 : A. ミラーの戯曲)，*Animal Farm* (1951, Penguin Books : G. オーウェルの代表的中編小説)，*Love Story* (1971, 英光社 : E. シーガルのベストセラー小説)，及び *Sesame Street* (1978, 日本放送協会［編］: NHK教育テレビで放映されているＣＴＷ制作の子供向け英語番組の７月号のテキスト)である。

それぞれの作品にみられた用例数は次の通りである：

1. *Daddy-Long-Legs* 156 (76) [246] DLL
2. *Animal Farm* 14 (2) [120] AF
3. *Death of a Salesman* 264 (70) [148] DS
4. *Love Story* 47 (14) [119] LS
5. *Sesame Street* 19 (15) [6−29] SS

ただし，（ ）内の数字は *be going to*～ または *be gonna*～の数，［ ］内の数字は作品の総ページ数，ただし 5. については資料収集に用いた範囲のページ数を，それぞれ示す。なお，右端の記号は，以後本稿で用いるそれぞれの作品の略号である。

また，資料収集の際の基準は，当然のことながら，'*be*＋～*ing*' という形式を備えている完全な現在進行形に限ることとした。したがって，以下にかかげるようなものはここでは count していない：

1. 形式は同じ '*be*＋～*ing*' であっても，その '～*ing*' が完全に形容詞化しているもの。
   (1) The competition *is maddening!* (DS : 12)
2. 不定詞・法助動詞等とともに用いられているもの。
   (2) It seems queer *to be writing* letters to somebody you don't know. (DLL : 25)
   (3) You prefer that I *should* not *be accepting* favors from strangers. (DLL : 169)
3. 「(主語＋) *be*」が省略されているもの。
   (4) Just *mending* my stockings. (DS : 38)
   (5) You *smoking*? (DS : 16)
4. 命令文の進行形。
   (6) Please *be thinking* about me! (DLL : 232)
5. 現在進行形受動態及び現在完了進行形

1.2 現在進行形の使用頻度と文体

ここに収集した資料から判断して，現在進行形は明らかに口語体の文章において多用されると言うことができる。たとえば *Animal Farm* には過去進行形は多用されているが，現在進行形の用例は極めて少なく，その14の用例はすべて引用符を付した会話体での用例である。また *Love Story* にしても，回想形式で書かれた小説であるから，過去進行形は極めて多用されているが，現在進行形の用例は比較的少なく，その47の用例のうち，地の文での用例はわずかに５例であり，その他はすべて引用符付きの会話体なのである。それに対し，*Daddy-Long-Legs* は現状報告を中心とする口語体の手紙文からなる小説なので，過去進行形に比べて現在進行形が圧倒的に多用されているし，*Death of a Salesman* や *Sesame Street* は自然な生の英語そのものであるので，やはり現在進行形が圧倒的に多用されているのである。

したがって，過去時を基調とした小説である *Animal Farm* や *Love Story* では，過去時制の一種である過去進行形が多用され，現在時を基調とした口語体からなる *Daddy-Long-Legs*, *Death of a Salesman*, *Sesame*

Street では，現在時制の一種である現在進行形が多用されていると言うことができよう。つまり，その頻度数から言えば，過去進行形が literary (written) style であるのに対して，現在進行形は colloquial (spoken) style であると言えるであろう。

1.3 動詞の使用頻度

500例の現在進行形において，どのような動詞がどのような頻度で用いられているかについて調べてみた結果，3回以上用いられている動詞をその頻度数とともに示せば次の通りである：*go* (28), *talk* (28), *get* (24), *come* (17), *have* (11), *tell* (11), *say* (10), *look* (9), *take* (9), *think* (9), *try* (9), *make* (8), *sit* (8), *write* (8), *carry* (7), *happen* (6), *read* (6), *build* (5), *die* (5), *feel* (5), *play* (5), *wait* (5), *ask* (4), *begin* (4), *eat* (4), *enjoy* (4), *fade* (4), *leave* (4), *lose* (4), *study* (4), *watch* (4), *work* (4), *bring* (3), *change* (3), *drive* (3), *expect* (3), *find* (3), *give* (3), *hang* (3), *learn* (3), *listen* (3), *live* (3), *paint* (3), *plan* (3), *send* (3), *sleep* (3), *start* (3), *stay* (3), *steal* (3), *walk* (3). このような結果を一見しただけでも，いかに日常的な基本的な動詞が多く用いられているかがわかるが，それはまた，現在進行形が口語体であることを裏付けるものでもあろう。

次に，この頻度数からみて代表的な動詞の例文を少し，*Death of a Salesman* からあげておくことにしよう：

(7) Suddenly I realize I'**m goin'** sixty miles an hour and I don't remember the last five minutes (8)

(8) What **are** you **talkin'** about? (42)

(9) Population **is getting** out of control. (12)

(10) When you write you'**re coming**, he's all smiles, and talks about the future, and —he's just wonderful. (54)

(11) Pop, listen! Listen to me! I'**m telling** you something good. (116)

(12) We'**re having** dinner. (94)

(13) He listens attentively, trying to pick up what Willy **is saying**. (14)

なお，現在進行形受動態の用例は極めて少なく，調査した範囲には，DLL (5), DS (2), LS (1), AF (0), SS (0), 全体でわずかに8例が認められたにすぎない。また，現在完了進行形については，小寺 (1977) ではその用例が極めて少ないことを報告したが，今回の調査では，DLL (37), DS (18), LS (0), AF (0), SS (2), 全体で57例が認められた［ただし，DS には I *been wondering* why you polish the car so careful. (25) のような例が3例みられたが，それは count していない］。この結果からすれば，現在完了進行形は口語体の文章ではかなり用いられると言えそうであるが，著者や話者の使用に対する好みといったものが，あるいはあるのかも知れない。

1.4 動作動詞の現在進行形

さて，それでは具体例の検討に入ろう。現在進行形というのは確かに，次の例のように，実際に今目の前である動作が行なわれていることを示すことがある：

(14) "Bullshit. You'**re looking** at my legs." (LS : 31)

(15) "You'**re driving** like a maniac," Jenny said. (LS : 38)

ところがこのような用例は，筆者の収集した資料の中には実はそれほど多くは含まれていないのである。

つまり，現在進行形は「現在進行中の動作」を示すとは言っても，話者が話しているその瞬間にその動作が行なわれていなければならないという必要性は全くないのである。たとえば次のような文，

(16) Let me see if I can't think of something else pleasant—Oh, yes! I'**m learning** to skate, and can glide about quite respectably all by myself. (DLL : 57)

(17) We'**re reading** Marie Bashkirtseff's journal. (DLL : 108)

などは，何よりも今手紙を書いているのであるから，今その動作が行なわれていようはずがないのである。これらは一時的な，まだ完結しない，断続的な現在進行中の動作を示していると考えられよう。

このように，現在進行形は，現実には動作を伴わないで断続的な動作を示すということから，次の例のように，それが反復や習慣（的行為）を示すということも何ら不思議なことではない：

(18) I don't believe I can be going to Heaven—I **am getting** such a lot of good things here ; it wouldn't be fair to get them hereafter, too. (DLL : 119)

(19) Biff! where is he? Why **is** he **taking** everything? (DS : 39)

(20) "Y**er** not **eatin'** enough salt." (LS : 12)

これらの文(16)—(20)においては，「現在進行中の動作」すなわち，「今～している」の意味が広義に解釈されており，それはいわば，……という点的な動作が，——という線的な，ある継続の幅をもってとらえられているのであると言ってもよいであろう。

いま進行形においては，動作が継続的にとらえられるということを述べたが，それはまたその動作を状態化してながめることを意味すると言うこともできよう。元

来，継続と状態とは不可分の概念であるからである。したがって，現在進行形は，次の例のように，現在継続中の動作を示すことがあるが，それは 'limited duration' というある範囲内での状態を示していると言っても同じことなのである。

(21) Sallie **is running** for class president, and unless all signs fail, she is going to be elected. (DLL : 97)

(22) And I looked at the pen and said to myself, what the hell **am I grabbing** this for? (DS : 138)

このように，動作に limited duration を持たせて，それをいわば状態化してとらえるということは，進行形の大きな特徴であると言えよう。

これに関連して，たとえば次のような言語事実を考えてみることは意味があろう［Cf. 安斎 (1971 : 162)］：

I forced him to {learn the answer. / *know the answer. / *be sleeping.}

He seems to {*learn the answer. / know the answer. / be sleeping.}

つまり，この事実は，*force* という動詞はその補文に非状態動詞，つまり動作動詞を要求し，*seem* という動詞はその補文に状態動詞を要求することを示していると考えられるが，*sleep* という動詞に関して言えば，*sleep* そのものは非状態動詞であるのに，*be sleeping* という進行形になると，それは状態動詞と同じ性質を表わし，状態動詞化することを示していると考えられよう。これは進行形が動作を継続的に状態化してとらえるものであることを示す証拠であると言えるのではないだろうか。

あるいはまた，スポーツの実況中継などを考えてみてもよい。football などの動きの速いスポーツでは単純形，rowing などの動きの比較的ゆっくりとしたスポーツでは進行形が，それぞれよく用いられる［Cf. Leech (1971 : 15)］が，これについてたとえば Close (1977[2] : 77) は次のような例をあげている：

Johnson passes to Roberts, Roberts to Watkins, Watkins takes it forward, oh he slips past the centre half beautifully, he shoots.

Oxford are rowing splendidly—one—two—three—four—they are just coming in sight of Hammersmith Bridge. Ah—Cambridge are increasing their pace.

進行形について言えば，それは動作を完結したものではなく，進行中・継続中のものとしてとらえるのであるが，換言すれば，それは動作にある duration をもたせて，それをスローモーション的に状態化して分析的にとらえているのであると言えよう。

さて，現在進行形はさらに，次の例のように，「～しつつある」，「～しかけている」，「～しようとしている」という動作の 'process' を示すことがある：

(23) You had finished our school at fourteen, and having done so well in your studies—not always, I must say, in your conduct—it was determined to let you go on in the village high school. Now you **are finishing** that, and of course the asylum cannot be responsible any longer for your support. (DLL : 17)

(24) "She's **dying**." (LS : 97)

つまり，文(23)は「学校を終えようとしている」ということであり，文(24)は「死にかけている」ということである。したがってそれぞれの動作そのものはまだ完結しておらず，その process の中にあるのである。

また，現在進行形は未来・予定・意志・命令・禁止などを示すことも多いが，それぞれの例を次に示そう：

(25) Soon or late the day **is coming**,
Tyrant Man shall be o'erthrown,
And the fruitful fields of England
Shall be trod by beasts alone. (AF : 13)

(26) No, Linda, what's **goin'** on? (DS : 91)

(27) He's **playing** in Ebbets Field. (DS : 91)

(28) I'm **going** to Washington in a few minutes. (DS : 93)

(29) Well, I'm **bringing** it back! (DS : 27)
［ただし，このセリフには *angrily* という ト書がある］

(30) I'm not **coming** back any more. (DS : 134)

(31) You're **comin'** home this afternoon captain of the All-Scholastic Championship Team of the City of New York. (DS : 90)

(32) "You're **staying** for dinner. That's an order." (LS : 45)

(33) You're not **going** near him! (DS : 129)

(34) You're not **talking** to him! (DS : 131)

これらの用法はすべて，さきの process の用法に関連づけてとらえることができるように思われる。即ち，未来・予定・意志などは，現実として物理的にその動作が始まっているわけではないが，話者の気持ちの上ではすでにそれが始まっており，たとえ未来のことであっても心理的にはその動作は現在進行中なのであり，その process の中にあると言えるのである。これはいわば process を心理的に拡大解釈したものと言えよう。このように考えれば，「お前は～する process の中にある

のだ」という進行形が，文脈によっては命令の意味で用いられたり，それがまた否定文で用いられると禁止を表わしたりすることも了解されよう。

また，進行形はこのように主観的・心理的な表現でもあるから，話者の感情的色彩が伴うことが多いのも当然であると言えよう。意志そのものがすでに感情表現の一種なのだが，たとえば文(29)の中には当然のことながら怒りが込められているはずであり，話者の開き直ったような感情がよく出ているように思われる。あるいはまた文(19)の反復の中には，明らかに話者の非難・不満・困惑・いらだちといった感情が含まれていると解釈されよう。そして，これらの感情的色彩が最も顕著に表面化するのは，次の例のように，*always*, *constantly*, *for ever* 等の強調・反復の副詞（句）が伴う場合であると言えるが，それは反復的動作が言外に必然的に何らかの感情を伴うものであるからである：

(35) You **are** *always* **having** to think of so many things that are out of doors and **getting** spoiled. (DLL : 164)

(36) I **am** *always* **making** this an excuse, am I not? (DLL : 191)

(37) The way people **are** *forever* **rolling** their eyes to heaven and saying, "Perhaps it's all for the best," when they are perfectly dead sure it's not, makes me enraged. (DLL : 214)

(38) See, Biff, everybody around me is so false that **I'm** *constantly* **lowering** my ideals...(DS : 20) [ただし，このセリフには *enthused* というト書がある]

進行形はその他いろいろな感情的色彩を伴うが，その大部分は文脈によるものであるように思われる。

ところで，現在進行形について注意しなければならないことは，その意味・ニュアンスが文脈によっては全く異なるものであり得るということである。たとえば次のような例をみてみよう：

(24) "She **is dying**." (LS : 97)

(39) "Jenny, for Christ's sake, how can I read John Stuart Mill when every single second **I'm dying** to make love to you?" (LS : 31)

(40) Linda : He's **dying**, Biff.
Biff : Why is he dying?
Linda : He's been trying to kill himself.
(DS : 58)

文(24)は「死にかけている」という process を示す用法であり，臨終に近いことを示す。文 (39) は「～したくて死にかけている，死にそうである」という，やはり process の用法であるが，これは「～したくてたまらない」という意味の idiomatic な一種の誇張表現となっている。また，文(40)は，やはりこれも process の用法であるが，前後の文脈から，「死のうとなさっているのよ」というような意志を読みとることができよう。このように，同じ *be dying* でありしかも同じ process の用法でありながら，文脈次第でその意味，ニュアンスがこれほど異なってくるのである。次は同じ表現が文脈に応じて2通りに用いられている例である：

(41) Grover : Hey everybody, it is Grover calling you!
All : What is it? What's **happening**? (SS : 6)

(42) Grover : Come on over here...gather around. This is going to be so much fun. Big Bird, are you here?
Big Bird : Yeah, what's **happening**? (SS : 6)

文(41)は，「何だ何だ。どうした。」という現在進行中の動作，文(42)は，「うん，何が始まるの？」という近接未来を，それぞれ示していると言えよう。このように進行形というのは，ある意味ではその意味が文脈に依存するという，かなり loose な表現であると言えるが，それだけに極めて dynamic な側面をもつものとも言うことができよう。そしてそれはまた，進行形のもつ大きな特徴の1つなのである。

なお，これに関連して，たとえば Chafe (1970 : 175－178) は，次のような例をあげて，それぞれが4通りに解釈が可能であることを述べている：

Bob is singing
Bob is opening the door.

つまり，progressive な用法として，単一動作 (non-generic) 及び反復動作 (generic) の2通り，そして anticipative な用法として，近接未来の単一動作 (non-generic) 及び近接未来の反復動作 (generic) の2通りの合計4通りというわけである。

1.5 状態動詞の現在進行形

状態動詞は原則として進行形をとらないとされているが，決してとらないわけではない。確かにその用例は少ないけれども，意図的にそれが用いられている場合もあるのである。そしてその際，話者は何を意図してあえて進行形を用いているのかということが問題となるが，ここでは収集資料にみられる実例を若干あげる程度に留めておくことにしたい[詳しい議論については，Cf. **2.3**]。状態動詞と言えば，まず *have*, *be*, *live* などが思い浮かぶが，その例を次に列挙してみよう。

(12) **We're having** dinner. (DS : 94)

(43) I **am having** sublingual gland swelling. (DLL : 64)

(44) **Aren't** Judy and Jervie **having** fun? (DLL : 94)

(45) I haven't mentioned any lessons of late; but we **are** still **having** them every day. (DLL : 134)

(46) But I still don't enjoy getting Sallie's letters about the good times they **are having** in camp! (DLL : 143)

(47) Well, Daddy, Master Jervie's here. And such a nice time as we'**re having**! (DLL : 154)

(48) Such a lot of adventures we'**re having**! (DLL : 155)

(49) Very miscellaneous weather we'**re having** of late. (DLL : 193)

(50) We'**re having** fancy dancing in gymnasium class. (DLL : 210)

(51) We **are** tramping over the hills and reading and writing, and **having** a nice restful time. (DLL : 222)

(52) Poor Jimmie **is having** a bad time peddling his bonds. (DLL : 230)

(53) **Is** Mother **living** with you? (DS : 45)

(54) I know that I was to write nice, long, detailed letters without ever expecting any answer. You'**re living** up to your side of the bargain—I'm being educated—and I suppose you're thinking I'**m** not **living** up to mine! (DLL : 142)

(55) It has been nearly two months since I wrote, which wasn't nice of me, I know, but I haven't loved you so much this summer—you see I'**m being** frank! (DLL : 141)

(56) William, you'**re being** first-rate with your boys. (DS : 52)

以上がその用例であるが，*have* については，本来の「持っている」という状態を意味する用例は1つもなく，すべて dynamic verb としての用例であると言えよう。即ち，*eat, enjoy, experience, receive* などの動作動詞でパラフレーズできるものばかりなのである。*be* についても同様であり，それぞれ *say, behave* などの動作動詞でパラフレーズが可能である。このことから，進行形は状態動詞を動作動詞化する機能をもつものと考えられよう。そしてこれもまた，進行形のもつ大きな特徴として指摘できるであろう。

また，*live* についても，limited duration あるいは temporariness といったニュアンスが感じられるが，それは時間的な継続の幅をもつ状態動詞を動作動詞化して，その幅を制限し，その activity あるいは process を強調するからであると言えるのではないだろうか。そしてこのことからも一般に，単純形が一般的・永久的・無感情的・事務的・無色透明であるのに対し，進行形は個別的・一時的・感情的・強調的・描写的であることが了解されるように思われる。

さらにその他の状態動詞の進行形の用例を次に列挙するが，その意味・ニュアンスについてはやはり以上と同じことが指摘できるであろう。そして，その理由を，やや先回りして述べるなら，どの状態動詞も何らかの意味で 'activity verb' または 'process verb' として用いられているからであるということになるであろう。

(57) "I'**m counting on** you to be strong, you hockey jock," she said. (LS : 105)

(58) I'**m expecting** someone, but I'd like a —(DS : 104)

(59) Good-by, Daddy, I hope that you **are feeling** as happy as I am. (DLL : 47)

(60) He'**s finding** himself, Willy. (DS : 11)

(61) Your pajamas **are hanging** in the bathroom, Willy! (DS : 66)

(62) Mom'**s hearing** that! (DS : 23)

(63) Fifty-seven irregular verbs have I introduced to my brain in the past four days —I'**m** only **hoping** they'll stay till after examinations. (DLL : 55)

(64) "**Are** you **implying** that Harvard Law School has accepted a man who can't even define 'okay'?" (LS : 55)

(65) He has gone, and we **are missing** him! (DLL : 163)

(66) You wouldn't believe, Daddy, what an abyss of ignorance my mind is; I **am** just **realizing** the depths myself. (DLL : 45)

(67) Linda **is sitting** where she was at the kitchen table, but now he notices that she is mending a pair of her silk stockings. (DS : 38)

(68) If you **are thinking** of raising chickens, let me recommend Buff Orpingtons. (DLL : 89)

(69) Good night, Daddy dear, and don't be annoyed because your chick **is wanting** to scratch for herself. (DLL : 168)

(70) I'**m** just **wondering** if Oliver will remember him. You think he might? (DS :

67)

2. 現在進行形の本質的意味機能

今までの論述において，すでに動詞を大きく動作動詞と状態動詞の2つに分けて扱ってきたが，ここでは動詞のもつ意味（素性）に基づいて，さらに細かな下位分類を行ない，それとの関連から，進行形のもつ本質的意味機能について考察してみることにしよう。

2.1 動詞の意味論的下位分類

Quirk et al. (1972 : 39) は，進行形をとらない動詞を STATIVE，進行形をとる動詞を DYNAMIC と呼んで区別し，次のような説明を与えている：

It is normal for verbs to be dynamic and even the minority that are almost always stative can usually be given a dynamic use on occasion.

ここでは 'on occasion' と言っているが，われわれがこれから考察しようとしている中心問題は，具体的にはいったいどんな場合に，stative でも進行形をとり得るのかということである。それを明らかにするためには，動詞を意味のタイプに応じてさらに下位分類して検討する必要があると思われる。ここでは Leech (1971 : 18−22) の考え方を軸にして考察を進めていくことにするが，彼は動詞を次の8種類に分類している：

A. **瞬間動詞** (MOMENTARY VERBS) : *hiccough, hit, jump, kick, knock, nod, tap, wink,* etc.

B. **移行的出来事動詞** (TRANSITIONAL EVENT VERBS) : *arrive, die, fall, land, leave, lose, stop,* etc.

C. **活動動詞** (ACTIVITY VERBS) : *drink, eat, play, rain, read, work, write,* etc.

D. **過程動詞** (PROCESS VERBS) : *change, grow, mature, slow down, widen, deteriorate,* etc.

E. **受動的感覚の動詞** (VERBS OF INERT PERCEPTION) *feel, hear, see, smell, taste*

F. **受動的認識の動詞** (VERBS OF INERT COGNITION) *believe, forget, hope, imagine, know, suppose, understand,* etc.

G. **所有と存在の状態動詞** (STATE VERBS OF HAVING AND BEING) : *be, belong to, contain, consist of, cost, depend on, deserve, have, matter, own, resemble,* etc.

H. **身体感覚の動詞** (VERBS OF BODILY SENSATION) : *ache, feel, hurt, itch, tingle,* etc.

このうち，AからDまでを dynamic verbs，EからHまでを stative verbs としてとらえることができる。ただし後者については，学者によっては用語が異なっている場合があり，たとえば Hornby (1975² : 105) はそれを 'nonconclusive verbs' (非完結動詞)，Palmer (1974 : 70−73) は 'non-progressive' verbs (非進行動詞) と呼んでいる。状態動詞という用語は厳密には正確なものではないが，ここでは広義に用いていることになる。

2.2 動作動詞と進行形

2.2.1 瞬間動詞

この種の動詞に対して，たとえば Quirk et al. (1972 : 96) は次のように説明している：

Momentary verbs have little duration, and thus the progressive aspect powerfully suggests repetition.

The child {*jumped* (=once) / *was jumping* (several times)} for joy.

Of course, the progressive aspect does not always imply repetition with these verbs, *eg*

The man *was jumping* off the bus when the policeman caught him.

つまり，瞬間動詞はその辞書的意味からして，ほとんど duration をもたないので，その進行形が limited duration をもつためには，通例その動作の反復を含意せざるを得ないということであるが，duration をもたせるもう1つの方法は，時間の流れ，つまりその動作の速度を slow down し，いわばスローモーション的にとらえるということであろう。換言すればそれは瞬間的動詞を過程動詞として分析的にとらえることなのである。いずれにせよ，このような瞬間動詞の進行形はその time span を拡大することになるように思われる [Cf. Leech (1971 : 15)]。

2.2.2 移行的出来事動詞

Leech (1971 : 19) は，この種の動詞の進行形は，'an *approach* to the transition, rather than the transition itself' を示すと説明しているが，同じようなことは Quirk et al. (1972 : 95) にもみられる：

The progressive implies inception, *ie* only the approach to the transition. Compare the following pairs :

The train {*arrived.* / *was arriving.*}

The old man {*died.* / *was dying.*}

つまり，移行的出来事動詞の進行形は，その動作が文字通り transitional であって，決して完結してはいないということなのである。

Leech (1971 : 16) はまた，次の例，

{The bus *stops!* / The bus *is stopping.*}

をあげ，感嘆文的な単純形はバスが完全に停止したこと

を示すが，進行形はバスが停止しようとしてスピードを落としてはいるが，完全に停止してはいないことを示すと説明している。つまりこの場合の進行形は，'be about to stop' ほどの意味なのである。

したがって，これらの動詞の進行形はその動作の process を示すと考えてもよいように思われる。つまり，その動作 a を，いわば $\{a_1, a_2, \ldots a_m, \ldots a_{n-1}, a_n\}$ というふうに，分解写真・スローモーションで，分析的・段階的にながめているわけであるが，決してその最終段階の a_n には到達していないということなのであり，process から派生する観念である incompletion が含意されることもまた当然なのである。したがって考え方としては，後述する過程動詞とほとんど変わるところはないものと言えよう。

2.2.3 活動動詞

この種の動詞は最もふつうに進行形に用いられる動詞であって，その単純形が一般的な事実，習慣を示すのに対して，その進行形は現在進行中・継続中の動作を示すが，それは同時に limited duration を示唆するものと言えよう。このことは，たとえば Zandvoort (1969[5]: 37−38) にみられる次のような例，

{What *are* you *reading*?—Oh, some trash I picked up at a bookstall.
{I seldom *read* French.

{The sun *rises* in the east and *sets* in the west.
{Look! the sun *is rising*.

を比べてみても明らかなことであろう。

2.2.4 過程動詞

この種の動詞に対して Leech (1971: 19) は次のように述べている：

> As a process ordinarily has duration, but not indefinite duration, these verbs also tend to go with the Progressive Aspect: *The weather* IS CHANGING *for the better*; *They'* RE WIDENING *the road*; etc.

つまり，Quirk et al. (1972: 95) でも述べられていることであるが，この過程動詞はさきの活動動詞とともに最も頻繁に進行形をとるということができよう。

また，Hornby (1975[2]: 107) などが 'inchoative verbs' (起動動詞) と呼んでいるものは，ほぼこの種の動詞に相当するものであると思われる。起動動詞というのは，'a verb that denotes the beginning, development or final stage, of a change of condition' つまり，状態の変化の開始，進展，または最終段階［つまり結果］を示す動詞［つまり，「……になる」の意味を表わす動詞］のことであり［Cf. 伊藤 (1977: 149)］，その代表的なものとして彼は，*get*, *become*, *grow*; *come*, *go*, *turn*, *fall*, *run*, *wear* などをあげている。因みにそれらの例文を若干 Hornby (1975[2]: 107−111) から引いてみよう：

The old man *is getting* weaker.
Our work *is becoming* more interesting.
It's *growing/getting/becoming* dark.
She's *growing/getting* to be more and more like her mother.
He's *going* bald.
The apples *are turning/becoming* red.

以上の例からも知られるように，これらの動詞を進行形で用いると，その動作が始まっている，あるいは始まりかけているということを示すのであって，決してそれが完結したことを示すのではないことは，移行的出来事動詞の場合と全く同じである。文字通りその process の中にあり，この場合もやはり incompletion の概念はつきまとうことになるのである。

なお，Hornby からの例の中には実は，比較級が含まれているものが多いが，これは決して単なる偶然ではないであろう。進行形に比較級が伴うことが多いのは，それが徐々に変化していくという process を示すのに都合がよいからであり，このことは後述の状態動詞の進行形による過程動詞化にもみられる現象であることを考え合わせると興味深いことと言えよう。

2.3 状態動詞と進行形

2.3.1 受動的感覚の動詞

この種の動詞に対して 'inert' という形容詞がつけられているが，それは Leech (1971: 20) の説明によれば，たとえば *see* という動詞は *look at* などとちがって行為者としての積極的な意志をもたないからということになるであろう。つまり *see* や *hear* などの知覚動詞は本来的に無意志動詞なのである。

ところが，Leech (1971: 23) によれば，inert なはずの知覚動詞のうちでも，*feel*, *taste*, *smell* の 3 つは，'active perception' を示すのにも用いられ，その場合それらは 'activity' category に属するので，自由に進行形をとることができるとして，次のような例などをあげている：

{I (*can*) *smell* the perfume. [INERT]
{I'*m smelling* the perfume. [ACTIVE]

{I (*can*) *taste* salt in my porridge. [INERT]
{I'*m tasting* the porridge, to see if it contains enough salt. [ACTIVE]

つまり，これらの動詞は，意志を有するかまたは有しないかにより 2 通りの用法があると考えられるのである。

それに対し，さらに Leech (1971: 23) は，*see* と *hear* は active な意味では用いられず，そのような意味を表現する場合には *look at* と *listen to* とがそれぞ

れ別に用いられるとして，次のような例をあげている：

{I (*can*) *see* a bus in the distance. [INERT]
{I'*m looking at* a bus in the distance. [ACTIVE]

{I (*can*) *hear* what he is saying. [INERT]
{I'*m listening to* what he is saying. [ACTIVE]

つまり，動詞によってそれぞれの意味の分担がきまっているのである。そして，inert な用法と active な用法との違いは，単に 'agency'（行為者性または発動力）があるかないかの違いにすぎず，*look at* と *listen to* については，それらは有生の行為者性を含む（'involving animate agency'）ものと，彼は考えているのである。つまり，もっと平易に言えば，その行為をしようとする積極的な行為者としての意志があるかどうかということが inert と active のそれぞれの用法を区別するポイントであると言えよう。

以上のことを Quirk et al. (1972 : 353) ふうに述べれば，'agentive'（動作主）の主語を要求する *look at* や *listen to* に対して，*see* や *hear* の知覚動詞は 'recipient'（受容者）の主語を要求し，それ以外の *taste, smell, feel* という知覚動詞は，agentive の意味と recipient の意味の両方をもっているのであるということになろう。そして，このように主語を recipient から agentive へと切り替えることが，進行形のモーメントであり発動力なのであると言うことも出来よう。

なお，このような inert から active への切り替えという考えは，つとにたとえば Sweet (1898 : 98) にすでにその萌芽がみられるものである。即ち，彼は感情や身体的及び精神的知覚等（'feelings, physical and mental perceptions etc.'）を表わす動詞はとくに単純形でしかおこらないのだが，意志または動作の要素が際立ってくると進行形が用いられる（'But as soon as the element of volition or action becomes prominent, the definite tenses re-assert their rights'）として，次のような例などをあげて比較している：

{He doesn't *see* it.
{He *is seeing* the sights.

{I *hear* a noise.
{I *am hearing* lectures.

また Hornby (1975[2] : 103−104) も次のような例などをあげている：

I'*m seeing* (paying a visit to) my dentist this afternoon.

Which judge *is hearing* (trying) the case?

もっとも，これらは本来の inert な意味の用法でもなければ，ただ単にそれを動作動詞化した用法でもないということに注意しなければならない。つまり，これらは全く別の意味の活動動詞として用いられており，もはや知覚動詞としての用法ではなくなっているのである。

さらにまた Leech (1971 : 23) は 'passive' と呼ばれるのがもっとふさわしい，3番目の種類の知覚動詞があるとして，次のような例文をあげている：

{That SOUNDS like Martha's voice.
{You LOOK tired.

そしてここでもまた，次のように，*smell, taste, feel* の3つは，この特別の機能をそのままの同じ形で果すのであると言う：

This peach *feels/smells/tastes* good.

もちろんこれらも進行形はとらないのであるが，*look* だけは例外で，

{You *look* well.
{You'*re looking* well.

の両方が可能であり，これは

{I *feel* well.
{I *am feeling* well.

の両者が同じ意味で用いられることからの類推によるものであろうと述べている [Cf. **2. 3. 4**]。

さて，以上に述べてきたことから，感覚動詞の基本的な用法には inert, active, passive の3通りがあることになるが，Palmer (1974 : 75−76) を参考にしてそれを整理してみると次のようになるであろう。

[INERT]	[ACTIVE]	[PASSIVE]
I **smell** flowers.	I'**m smelling** the flowers.	The flowers **smell** lovely.
I **taste** salt in the soup.	I'**m tasting** the soup.	The soup **tastes** salty.
I **feel** something rough.	I'**m feeling** the cloth.	The cloth **feels** rough.
I **see** my brother.	I'**m looking at** my brother.	He **looks** well.
I **hear** music.	I'**m listening to** the music.	It **sounds** beautiful.

そして，Palmer の説明を適用すれば，INERT の用法が 'acquire the sensation' の意味をもつ private verb であり，PASSIVE の用法が 'produce the sensation' の意味をもつ verb of state であり，ACTIVE の用法は 'act to acquire the sensation' の意味をもち，non-progressive verb ではない，ということになろう。

ところで，*hear* や *see* が決して進行形で用いられないかというと，そうではない。たとえば Leech (1971 : 24) は *hear* について，無線通信手や電話交換手が用いる，

I *am hearing* you clearly.

などは acceptable であり，この場合の意味は 'I am receiving your message.' ということであり，進行形を用いることの効果は通信の process を強調することにあり，このような文脈では *hear* を過程動詞とみなすことができると述べている。

そう言えば，たとえば Hatcher (1951 : 269) なども，

I'*m hearing* it better now : it's coming through more clearly all the time.

I'*m seeing* it more clearly now : focus it just a little more to the left.

のような例をあげ，これらは漸次的進展('development by degrees') を強調すると言っているが，これは過程動詞化されていると説明するのと同じことであると思われる。そしてこれらの例に含まれている比較級形態素は，感覚動詞から過程動詞への素性変更を容易にしているものと考えられよう。

2.3.2 受動的認識の動詞

この種の動詞も原則的には進行形をとらないが，別の意味を帯びると進行形になることがあり，たとえば Leech (1971 : 24) は次のような例とそのパラフレーズを示している：

I'*m thinking* about what you said. (=considering; ruminating)

Surely you'*re imagining* things. (=entertaining or indulging yourself with illusions)

I'*m supposing*, for the purposes of this argument, that your intentions are unknown. (=I am making the temporary assumption that...)

つまり，各文は何らかの積極的な精神活動 ('some positive mental activity') を示唆し，これらの動詞は活動動詞として機能していると考えるのである。

それに対して，もう1つ別の意味を帯びる場合がある。その例をたとえば Hornby (1975[2] : 106) から引いてみよう：

He'*s forgetting* his French. (The use of the progressive tense suggests a gradual loss of his knowledge of French, his ability to speak French.)

I'*m forgetting* (=I nearly forgot) that I promised to visit Smith this evening.

How *are* you *liking* your new job? (Here the progressive tense is used because the person to whom the question is put may not have arrived at a final state of either like or dislike.)

これらの動詞の進行形は，Hornby 自身のつけている注釈からも明らかなように，その process を示しており，これらの動詞は過程動詞として機能しているものと考えられよう。

ところで，Leech (1971 : 24) は，この種の動詞のうちのあるものは，次の例に示されているように，進行形で用いられると 'polite' な表現になると言う：

I'*m hoping* you'll give us some advice.

What *were* you *wanting*?

You *are forgetting* the moral arguments.

We'*re wondering* if you have any suggestions.

［ただし，荒木他 (1977 : 249) によれば，2番目の例文は，「多くの母国語使用者には受け入れられない」とのことである］

そして彼は，進行形がこのように好んで用いられるのは，その 'tentative' な性格によるものであると考え，例えば，

{I *hope* you'll give us some advice.
{I'*m hoping* you'll give us some advice.

の2つを比較して，単純形は断定的であるから，聞き手にていねいに断わる余地は残されていないが，進行形は，話者としては決定的に言明してはおらず，相手の反応によっては気持ちを変える用意があることを意味すると述べている。しかしこれは，今上で触れたように，incompletion の概念を伴う過程動詞としての用法から自然に生ずるニュアンスであって，何ら特別な用法と言うには当たらないとも言えよう。

さて，以上のことから，この種の動詞が進行形で用いられると，活動動詞及び過程動詞の2通りの機能をもつようになることがわかった。事実，Close (1977[2] : 79) もたとえば，

What *are* you *wanting* now?

という文は，(1) You have not made up your mind. 及び (2) You are in a perpetual state of wanting something you do not have. という2通りの解釈が可能であることを述べているが，その判断は話者・聴者の主観に左右される微妙なものであり，まさに 'psychological subtleties' と呼ぶにふさわしいものと言えよう。そしてさらに微妙なのは，

(*a*) I *hope* you will come and have lunch with me.

(*b*) I *am hoping* you will come and have lunch with me.

のような例であり，Close (1977[2] : 80) は，どちらも正しい表現であるが聞き手に与える効果は同じではない。そして，どちらを選ぶにしても native speakers はいわば無意識に選んでおり，その選択の基準は個人的な主観的な問題であるとしながらも，彼自身は次のように説明している。即ち，多忙でうぬぼれの強い人なら ('busy, self-important man')，(*a*) の文を生意気な ('presumptuous') 表現だと感じ，招待を拒絶するが，(*b*)の文は非常にうやうやしい ('flatteringly deferential') 表現だと感じ招待を受け入れるであろう。またある人は逆に，(*a*)の表現をはっきりと ('definitely') 招待されたのだ感じ，喜んで受け入れるだろうが，(*b*) は不確かで ('uncertain')，ぜひ来てくれという感じがし

ない（'not sufficiently pressing'）と受けとるであろう。この説明はもちろん，さきの Leech の polite な表現という説明と似ているが，人により解釈の異なり得るおもしろい例と言えよう。

2.3.3 所有と存在の状態動詞

この種の動詞ももちろん進行形をとらないが，Leech (1971 : 25) はやはり 'activity' の意味が加わるとそれが可能であるとして，次のように説明している：

> ...there is no difficulty with *She is being kind*, because we are able to understand 'kindness' here as a mode of outward behaviour over which the person has control, rather than as an inherent trait of character. *She is being kind* means 'She is acting kindly towards someone', whereas *She is kind* means 'She is constitutionally good-natured'.

そして，同じような意味の相違は次のような例にもみられるとして，そのパラフレーズを示している：

> He's a fool (*i. e.* 'He can't help it—it's his nature').
> He's *being* a fool (*i. e.* 'He is acting foolishly').
>
> He's awkward (*i. e.* 'He's clumsy, gauche').
> He's *being* awkward(*i. e.* 'He's being deliberately obstructive').
>
> The car is difficult to drive (*i. e.* 'It's made that way').
> The car *is being* difficult (*i. e.* 'It's going out of its way to cause trouble'—the car here is almost personified).

Leech (1971 : 25) はさらに，

> He's *being* good/useful/helpful/a nuisance/an angel.

も許されるし，どんなにありそうもないことであっても，ある役割を演ずるという概念をその中に読みこむことによって，明確な 'activity' の意味が認められなくてもしばしば *X is being Y.* という文に意味を持たせることができ，たとえば，

> Today, my uncle *is being* Napoleon.

というのは，俳優や誇大妄想狂について言うことができるだろうと述べている。そしてまた，

> He *is being* sorry/afraid/happy etc.

は 'He is pretending to be sorry/afraid/happy.' を意味し，例は少ないが *have* についても，

> My wife *is having* a headache.

は，'My wife is pretending to have a headache.' の意味であるとも述べている。

以上のように Leech は豊富な例をあげているが，次に今すこし他の学者の例を引用してみよう：

> I suppose you think you'*re being* funny? (*i. e.* saying or doing something funny.) [Zandvoort (1969[5] : 40)]
>
> You fancy you *are being* very clever. (*i. e.* saying very clever things) [Poutsma (1926 : 340)]
>
> Mary *is being* a good girl today. (*i. e.* behaving well) [Quirk et al. (1972 : 95)]
>
> He *is being* very cautious. (*i. e.* moving very cautiously) [Givón (1970 : 832)]

これらのパラフレーズをみても，*act, behave, do, pretend, say* などの代表的な活動動詞が用いられていることから，これらの進行形には 'activity' の意味が含まれており，明らかに活動動詞化されていることが了解されよう。しかも，「今，一時的に，わざと～している」というニュアンスが感じられるのである。それは，進行形の特性としての temporariness が認められるのはもちろんとしても，一般に状態動詞の活動動詞化には，さらに agentive が必要であると考えられるからであろう。

ところで Leech (1971 : 26) はまた，この種の動詞のうちで，あるものは *more and more* のような表現を伴うと進行形をとることができるとして，次のような例，

> He *is resembling* his father more and more as the years go by.
>
> The income of one's parents *is mattering* less in education these days.
>
> Good food *is costing* more since devaluation.

をあげ，これらの文の意味は概略，'This is the way things are going.' ということであり，進行形が用いられているのは，これらの動詞がもはや state verbs ではなく process verbs に transfer されているからであると述べている。つまり，*resemble* は 'become like', *matter* は 'become important', *cost* は 'become costly' というふうにパラフレーズが可能なのである。さすがに，

> *He *is resembling* his father.

は非文であるが，比較級形態素が伴う場合は，その中に process を含意しているので，それが *resemble* などという動詞でさえも過程動詞への素性変更を容易にする機能を果しているものと考えられよう。

2.3.4 身体感覚の動詞

Leech (1971 : 22) によると，この種の動詞は一時的な状態に言及するとき，進行形または単純形のどちらでも用いることができるとして，次のように説明している：

> There is apparently a free choice, without change of meaning, between. *I feel hungry* and *I am feeling hungry*; between *My knee hurts* and *My knee is hurting*; etc.

そして，ここの *feel* は内的感覚（'internal sensation'）を問題としており，2.3.1 での知覚動詞としての *feel* は，次の例のように，外的感覚（'external sensation'）を問題としていることに注意しなければならないと言う：

I can *feel* a stone in my shoe.

また，Quirk et al. (1972 : 95) も，この種の動詞を dynamic verbs に分類しているものの，単純形と進行形との間にはほとんど意味の差はない（'with little difference in meaning'）ことを指摘しているし，Hornby (1975[2] : 106) も，たとえば，

She's *feeling*/She *feels* better today.

について，'There is little to choose between the members of the pair.' と述べている。

したがって，この種の動詞は，ほとんど意味の差を伴わないで，単純形と進行形とが自由に交替できる種類であると言えよう。そしてこの交替現象は，Hatcher (1951: 261) によれば，「侵略的構文である進行形が，明瞭に進行中の活動を叙述するさい，全部が全部，単純形を駆逐してはいない」（'...the progressive, the invader construction, has not yet driven out the simple form from every predication of an activity obviously in progress'）[Cf. 笠井(1977[3] : 9)] ということになるが，これは進行形の発達を歴史的にとらえた，興味深い発言であると言えよう。

3. むすび

以上の考察から，動作動詞の現在進行形は，(1)現在進行中または継続中の動作 (activity)，及び (2)ある動作の過程 (process)，の2つを示すものであると考えられる。そしてこれらは用いられる動詞の意味素性に応じて使い分けられるのである。(1)の場合は，活動動詞が用いられるのであるが，狭義に解釈すれば，「今～している」という現実の具体的な動作を示し，広義に解釈すれば，断続的な動作・反復・習慣等を示すと言えよう。一方，(2)の場合は，移行的出来事動詞及び過程動詞が用いられるのであるが，狭義に解釈すれば，「今～しつつある」というある動作のプロセスを示し，広義に解釈すれば，予定・未来・意志等を示すと言えよう。また，(1) は動作を状態化して継続的にとらえ (limited duration)，(2)は動作をまだ完結しない未完了的なものとしてとらえる (incompletion) と言うこともできよう。なお，瞬間動詞については，(1)の用法の場合は反復動作を示す表現となり，(2) の用法の場合はスローモーションで分析的にとらえた動作を示す表現となると考えられる。

次に，状態動詞の現在進行形についてであるが，それは動作動詞の場合に準じて考えることができる。つまり，その用法としては，(1)活動動詞化される場合，及び (2)過程動詞化される場合，の2通りがあるということである。(1)の場合は，自分の意志でその動作を自由に control できるわけで，行為者の積極的な意志が感じられることが多い。換言すれば，[+agentive]，[+self-controllable]，[+volitional]，[+active]等の素性が付与されているということである。また，状態動詞が本来的に具有する継続性の time span は，進行形による動作動詞化に伴って，自動的に制限されることになる。したがって，たとえば *be*, *have*, *live* の進行形に limited duration, temporariness 等が伴うのは当然のことであると言えよう。一方，(2) の場合は [−agentive]，[−self-controllable]，[−volitional]，[−active] であり，発展的意味をもつプロセスを示すために，しばしば比較級形態素の支えを必要とする。また，プロセスとしての動作を強調することは，同時にそこに注意が集中されることを意味し，その結果，生彩のある描写的な表現となることが多い。この意味においては，「集注叙述」なる命名も故なしとはしないと言えよう。

さて，今までの英語教育においては，はじめに触れたように，現在進行形の指導にあたって，「今～している（ところである）」，「今～しつつある」などの訳語を与え，現在進行形は「現在進行中の動作」を示すものであると説明するというのが相場であった。が，これだけでは明らかに説明不足であり，誤解や混乱を生むのも当然のことであると言わなければならない。

即ち，今までの指導では，今現にその動作が行なわれているのかあるいはそうでないのか，また現在の動作を示しているのかそれとも過程を示しているのかといった区別が十分に指導されてきただろうか。あるいは，進行形のもつニュアンスは多種多様であり，しかもそれは文脈によっては大いに異なり得るものであるという loose でかつ dynamic な側面が指導されてきただろうか。そして進行形と言えば，単にその用法を未来・予定・意志・反復などに分類し，その用例の羅列のみに終始してこなかっただろうか。また，それらを相互に関連づけてとらえようとする指導をしてきただろうか。そして何よりも進行形は，用いられる動詞の意味素性に応じて使い分けるのであるということが指導されてきただろうか。また，活動動詞の進行形の指導に重点が置かれすぎ，過程動詞の進行形の指導は不当に軽く扱われてこなかっただろうか。さらに，いかなる状態動詞といえども，活動動詞化または過程動詞化によって，進行形で用いられ得るという潜在的可能性は否定できないにもかかわらず，状態動詞は進行形をとらないなどという誤った指導はしてこなかっただろうか。とかく今までの指導は，その本質ではなく，表面的な効果，ニュアンスのみを断片的に追い求める傾向にあり，それは，いわば「木を見て森を見

ず」のたぐいであったように思われて仕方がないのである。

4. 参考文献

Allen, R. L. (1966) *The Verb System of Present-Day American English* The Hague : Mouton

Allen, W. S. (1974[5]) *Living English Structure* London : Longman

安藤貞雄（訳）（1972）『英語動詞の言語学的研究』東京：大修館書店

——他（1974）『動詞・時制・法・態』（続クエスチョン・ボックス シリーズ 第18巻）　東京：大修館書店

安斎庸子（1971）「英語における状態的・非状態的動詞，形容詞について」『英語学』（東京：開拓社）第6号　pp. 154－163

荒木一雄他（1977）『助動詞』　東京：研究社

Celce-Murcia, M. (1977)'Understanding and Teaching the English Tense-Aspect System' *English Teaching Forum* (USIA) Vol. XV No. 4 pp. 2－11

Chafe, W. L. (1970) *Meaning and the Structure of Language* Chicago : The Univ. of Chicago Press

Christophersen, P. and Sandved, A. O. (1969) *An Advanced English Grammar* London : Macmillan

Close, R. A. (1962, 1977[2]) *English as a Foreign Language* London : George Allen & Unwin

——(1975) *A Reference Grammar for Students of English* London : Longman

Comrie, B. (1976) *Aspect* Cambridge : Cambridge Univ. Press

Cook, J. L. et al. (1967) *A New Way to Proficiency in English* Oxford : Blackwell

Curme, G. O. (1931) *Syntax* Boston : Heath

江川泰一郎（1964）『英文法解説』（改訂新版）東京：金子書房

Givón, T, (1970) 'Notes on the Semantic Structure of English Adjectives' *Language* (LSA) Vol. 46 No. 4 pp. 816－837

Gleason, H. A. Jr. (1965) *Linguistics and English Grammar* New York : Holt, Rinehart andWinston

五島忠久・織田稔（1977）『英語科教育　基礎と臨床』東京：研究社

Hatcher, A. G. (1951) 'The Use of the Progressive Form in English : A New Approach' *Language* (LSA) Vol. 27 pp. 254－280

Hill, A. A. (1958) *Introduction to Linguistic Structures* New York : Harcourt Brace Jovanovich

Hirtle, W. H. (1967) *The Simple and Progressive Forms : An Analytical Approach* Québec : Les Presses de L'université Laval

Hornby, A. S. (1975[2]) *Guide to Patterns and Usage in English* London : Oxford Univ. Press

細江逸記（1973）『動詞時制の研究』（新版）　東京：篠崎書林

池上嘉彦（1977）（訳）『現代英語文法＜大学編＞』東京：紀伊國屋書店

伊藤健三（1977）（訳）『英語の型と語法』　東京：オックスフォード大学出版局

岩尾純枝（1976）「Be＋ing 形の実際」『英語科教育研究』（大阪教育大学・大学院　英語科教育談話会）第1輯 pp. 123－139

Jespersen, O. (1924) *The Philolophy of Grammar* London : George Allen & Unwin

——(1931) *A Modern English Grammar on Historical Principles* (Part IV) Copenhagen : Munksgaard

——(1933) *Essentials of English Grammar* London : George Allen & Unwin

Joos, M. (1968[2]) *The English Verb : Form and Meanings* Madison, Wis. : Univ. of Wisconsin Press

笠井満（1977[3]）（訳）『進行形の用法』（英語学ライブラリー 35）　東京：研究社

Keene, D. and Matsunami, T. (1969) *Problems in English* Tokyo : Kenkyusha

小寺茂明（1977）「現在完了形についての一考察—その本質的意味と効果的な指導法—」『島根大学教育学部紀要』第11巻（教育科学編）pp. 61－72

国広哲弥（1967）『構造的意味論—日英両語対照研究—』　東京：三省堂

——(1976)（訳）『意味と英語動詞』　東京：大修館書店

Kuruisinga, E. (1931[5]) *A Handbook of Present-Day English* (Part II, 1) Groningen : Noordhoff

Lakoff, G. (1966) 'Stative Verbs and Adjectives in English' *The Computation Laboratory of Harvard University : Mathematical Linguistics and Automatic Translation* [NSF 17] pp. 1－16

——(1970) *Irregularity in Syntax* New York : Holt, Rinehart and Winston

Leech, G. N. (1971) *Meaning and the English Verb* London : Longman

—— and Svartvik, J. (1975) *A Communicative Grammar of English* London : Longman

Long, R. B. (1961) *The Sentence and Its Parts : A Grammar of Contemporary English* Chicago : The Univ. of Chicago Press

Lyons, J. (1968)*Introduction to Theoretical Linguistics*

London : Cambridge Univ. Press
Meyer-Myklestad, J. (1968²) *An Advanced English Grammar for Students and Teachers* Oslo : Universitetsforlaget
毛利可信 (1972) 『意味論から見た英文法』 東京：大修館書店
——(1974) 『ジュニア英文典』 東京：研究社
織田稔他 (1972) 「英語進行形における『時』と『相』—その理解と教え方—」『大阪教育大学紀要』第21巻 (第V部門) pp. 1−13
Onions, C. T. (1971) *Modern English Syntax* (completely revised) London : Routledge and Kegan Paul
小野経男 (1961) 「進行形の機能とその近代英訳聖書における発達」『西南学院大学 英語英文学論集』第2巻 第2号 pp. 95−117
太田朗 (1954) 『完了形・進行形』 (英文法シリーズ第12巻) 東京：研究社
Ota, A. (1963) *Tense and Aspect of Present-Day American English* Tokyo : Kenkyusha
Palmer, F. R. (1974) *The English Verb* London : Longman
Poutsma, H. (1926) *A Grammar of Late Modern English* (Part II, 2) Groningen : Noordhoff
Quirk, R. et al. (1972) *A Grammar of Contemporary English* London : Longman
—— and Greenbaum, S. (1973) *A University Grammar of English* London : Longman
斎藤静 (1949) (訳) 『現代英語進行形の研究』 東京：白桃書房
佐藤秀志 (1977) 『英語授業の診断—よりよい授業をめざして—』 (英語 教育 ライブラリー 第10巻) 東京：開隆堂
Scheffer, J. (1975) *The Progressive in English* Amsterdam : North-Holland
Scheurweghs, G. (1959) *Present-Day English Syntax* London : Longman
Schibsbye, K. (1970²) *A Modern English Grammar* London : Oxford Univ. Press
Sweet, H. (1898) *A New English Grammar* (Part II) London : Oxford Univ. Press
Thomson, A. J. and Martinet, A. V. (1969²) *A Practical English Grammar* London : Oxford Univ. Press
Twaddell, W. F. (1963²) *The English Verb Auxiliaries* Providence, R. I. : Brown Univ. Press
渡辺勝馬 (1973) 「He Is Being Clever—進行形の一形態について」『共立女子短期大学 (文科) 紀要』第17号 pp. 104−114
安井泉 (1972) 「英語の動詞表現における進行形について」『英語学』 (東京：開拓社) 第8号 pp. 72−96
Zandvoort, R. W. (1969⁵) *A Handbook of English Grammar* London : Longman